◆連携シート「むすびの和」普及事業

○連携シート「むすびの和」モデル事業
～浅口管内～　研修会のご報告

岡山プライマリ・ケア学会 作業部会委員
ＮＰＯ法人総合ケアシーザル
介護支援専門員　賀来　貴子

一昨年から、岡山プライマリ・ケア学会の作業部会委員が中心となり、連携シート「むすびの和」を作成してきました。このたび、浅口医師会会長の福嶋啓祐先生のご尽力と、浅口介護支援専門員連絡協議会にご協力を頂き、浅口管内で連携シート「むすびの和」のモデル事業を実施することになりました。

その事業の一環といたしまして、平成二十三年六月三十日（木）十八時より、浅口市健康福祉センターにて、連携シート「むすびの和」の研修会を行いました。研修委員長の宮原伸二先生と賀来が講師として、シートの利用目的や連携の仕方、具体的なシートの使い方などについて説明を行いました。研修会にはケアマネジャーをはじめ、医師、ＭＳＷ、サービス事業者など約七十名が参加され、みなさん熱心に話をきいておられました。

「浅口でも、連携が重要であることはわかっていますが、まだまだ追いついていません」といわれる状況の中、連携に対する皆様の関心の高さがうかがわれました。

連携の必要性が叫ばれている今日この頃ですが、すべてはご利用者様（患者様）のために！各関係者がどうしたらうまく連携ができ、良い支援につながるのか、といったところの理解が重要だと思われます。在宅で支えていくためには、今まであった、病院間の連携だけでなく、病院とケアマネジャー、さらには在宅医や各サービス事業者と連携していくことが不可欠であること、ご本人の思いをかなえるべく、また秘められた能力を見出し、ご本人の望まれる生活を実現するための支援（ＩＣＦの理念を取り入れる）が必要であることなど、今回の研修をとおしてお伝えできたのではないかと思っております。

今後は、報告会などを通して、現場の貴重なご意見をいただきながら、よりよい連携のためのシートに改良していきたいと思っております。また、他の地域についてもモデル事業を通してシートの普及に努めていく予定です。シートを通して、医療・介護・福祉がよりスムーズに連携できるような仕組みを構築していくことが、これからの重要な課題と思われます。最後になりましたが、浅口医師会、浅口介護支援専門員連絡協議会の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。